GUNZE
明日をもっと、ここちよく

2027年3月期（131期）
第2四半期（中間期）決算説明資料

2026年11月5日

グンゼ株式会社

東証プライム（コード番号：3002）

ご説明の流れ

Ⅰ．2027年3月期第２四半期（中間期）
　　決算概要

Ⅱ．事業セグメント別の概況

Ⅲ．2027年3月期連結業績見通し

Ⅰ．2027年３月期
第２四半期（中間期）決算概要

Ⅰ-1. 2027年３月期第２四半期（中間期）決算 業績

連結業績

(単位：百万円)

	2027年3月期 第２四半期(下段:利益率)	2026年3月期 第２四半期(下段:利益率)	対前期 増減額	対前期 増減率(%)
売上高	64,082	65,270	△1,187	△1.8
営業利益	5,778 9.0%	3,186 4.9%	2,592	81.3
経常利益	5,843 9.1%	3,205 4.9%	2,638	82.3
親会社株主に帰属する中間純利益又は損失	4,317 6.7%	△658 △1.0%	4,975	-

(前期の主な特別損益)　アパレル事業構造改善費用　△3,498

売上高　：プラスチックフィルムが堅調に推移も、アパレルの販売減少影響により、1,187百万円の減収

営業利益、経常利益：プラスチックフィルムにおける販売価格と原料価格の変動タイムラグによる利益の押し上げや、海外事業の収益改善、アパレルの事業構造改革の順調な進捗により、2,592百万円の増益、経常利益は2,638百万円の増益

親会社株主に帰属する中間純利益：前期に計上したアパレル事業における事業構造改革費用の影響などにより、4,975百万円の増益

通期予想：当中間連結会計期間の業績が概ね想定の範囲内で推移していることから、2026年5月14日に公表した通期業績予想からは変更していない（但しセグメント別予想は変更）

Ⅰ-2. 第２四半期（中間期）決算サマリー

（2026年４月１日～2026年９月30日）

事業セグメント業績の主なポイント

機能 ソリューション	**増収増益** ◆プラスチックフィルムは、販売価格と原料価格の変動タイムラグによる利益の押し上げや、海外事業の収益改善、国内外での製品原価の改善などにより、好調に推移 ◆エンジニアリングプラスチックスは、半導体関連の需要拡大もあり、順調に推移
メディカル	**減収減益** ◆国内は医療市場の競争が厳しい中、癒着防止材や骨接合材などの吸収性製品が順調に推移するも、医療用レーザー事業の縮小影響を受ける ◆中国販売は、医療費適正化政策による購入抑制の影響が継続
アパレル	**減収増益** ◆ブランド集約や価格改定などの集中特化戦略に加え生産・物流拠点の集約化や間接部門合理化などにより収益性は改善 ◆量販店ルートでは、個人消費伸び悩みに加え売り場面積減少の影響を受ける ◆DtoCルートではアセドロンが堅調に推移。販促施策の見直しなどにより、販売金額は前年をわずかに下回るも、収益性は改善
ライフ クリエイト	**増収増益** ◆不動産関連は、商業施設のリニューアル効果により来館者が増加するなど、好調に推移 ◆スポーツクラブ分野は、既存店の売上拡大と不採算店舗削減等のコストダウン効果により損益が改善

Ⅰ-3. セグメント別業績

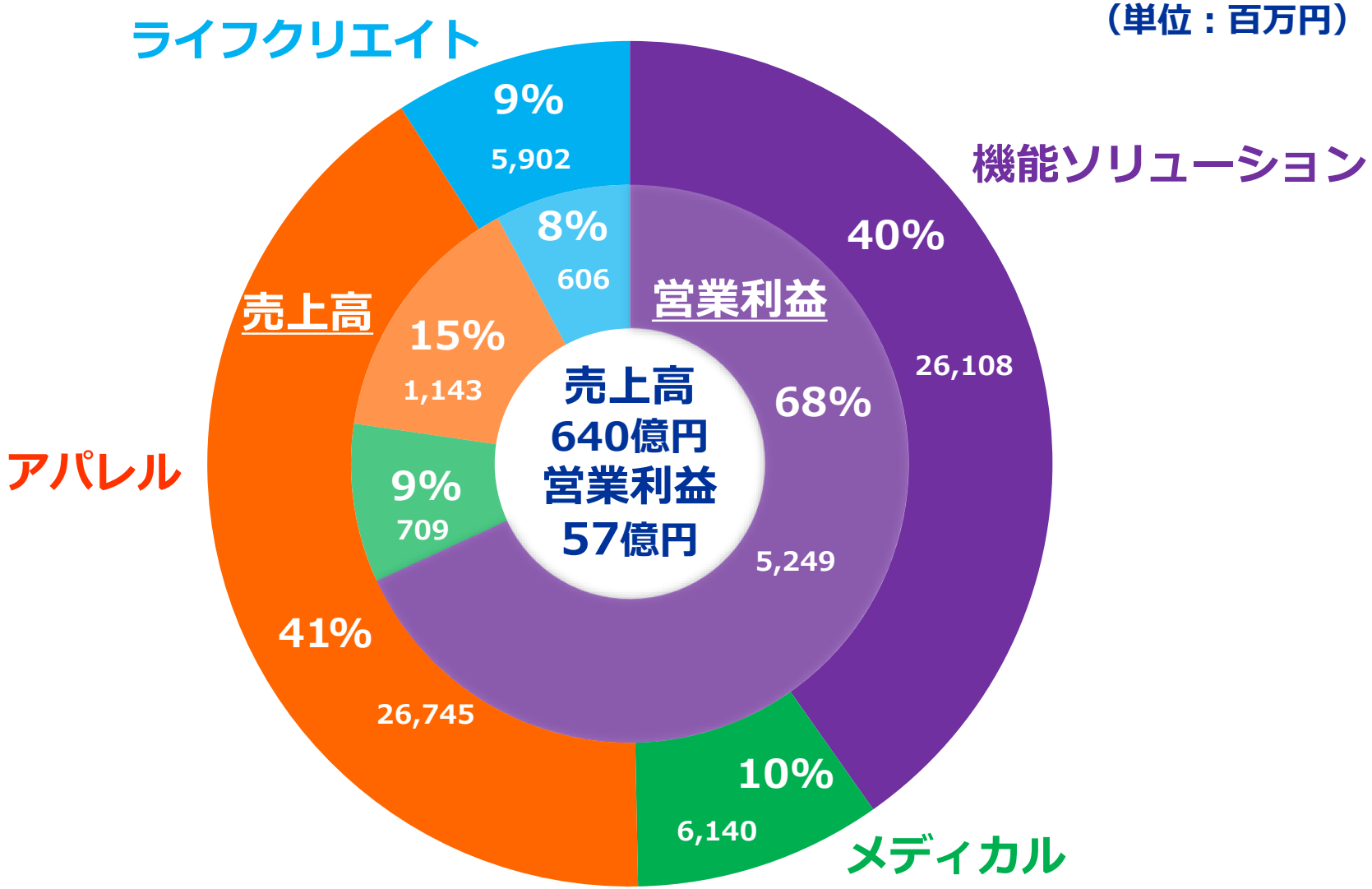
連結業績

（単位：百万円）

	売上高			営業利益（下段：利益率）		
	2027年3月期 第２四半期	2026年3月期 第２四半期	対前期増減	2027年3月期 第２四半期	2026年3月期 第２四半期	対前期増減
機能ソリューション	26,108	23,667	10.3% 2,441	5,249 20.1%	3,346 14.1%	56.9% 1,902
メディカル	6,140	6,480	△5.3% △340	709 11.5%	948 14.6%	△25.2% △238
アパレル	26,745	29,785	△10.2% △3,039	1,143 4.3%	249 0.8%	358.6% 894
ライフクリエイト	5,902	5,838	1.1% 63	606 10.3%	475 8.1%	27.7% 131
合計	64,082	65,270	△1.8% △1,187	5,778 9.0%	3,186 4.9%	81.3% 2,592

Ⅰ-4. セグメント別構成比

（単位：百万円）



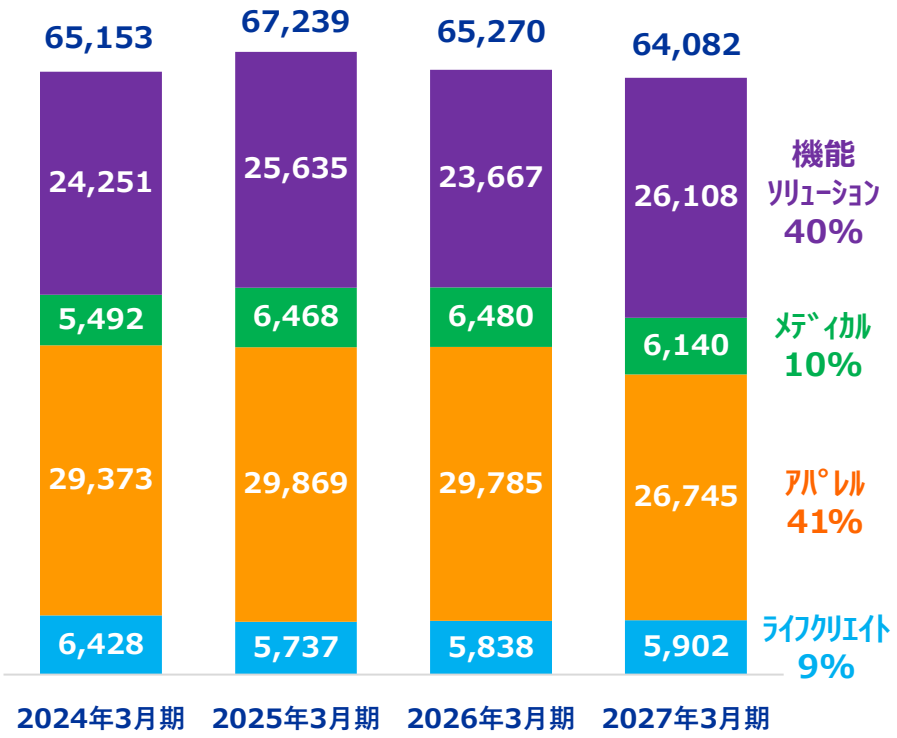
総額は、セグメント利益に含まない全社費用を含む

Ⅰ-5. 第2四半期決算　売上高&営業利益

売上高　64,082百万円　前年同期比　△1.8%
営業利益　5,778百万円　前年同期比　81.3%

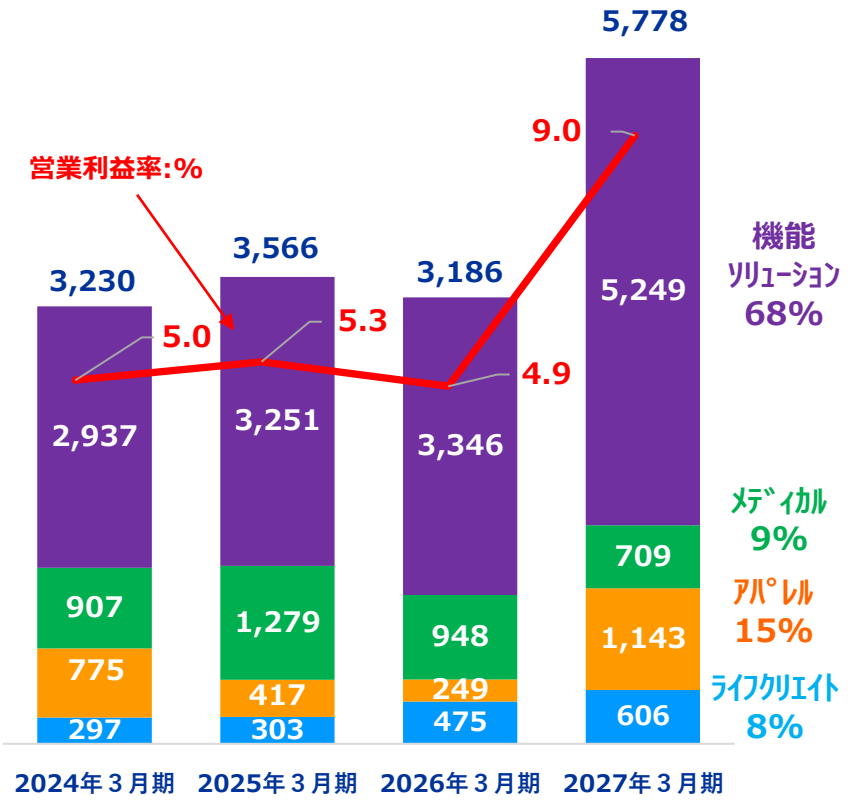
(単位：百万円)

<事業セグメント売上高推移>



< 事業セグメント営業利益推移>

総額は、セグメント利益に含まない全社費用を含む



Ⅰ-6. 四半期別業績推移

（単位：百万円）

	第１四半期				第２四半期			
	2026年度 (27/3月期)	2025年度 (26/3月期)	(対前期) 増減額	(対前期) 増減率(%)	2026年度 (27/3月期)	2025年度 (26/3月期)	(対前期) 増減額	(対前期) 増減率(%)
売上高	31,367	32,240	△872	△2.7	32,714	33,029	△315	△1.0
機能ソリューション	12,354	11,515	838	7.3	13,754	12,152	1,602	13.2
メディカル	2,925	3,145	△219	△7.0	3,214	3,335	△120	△3.6
アパレル	13,321	14,763	△1,441	△9.8	13,424	15,021	△1,597	△10.6
ライフクリエイト	3,056	3,018	37	1.3	2,845	2,819	25	0.8
営業利益	3,387	1,806	1,581	87.6	2,391	1,380	1,010	73.1
機能ソリューション	2,526	1,582	944	59.7	2,723	1,764	958	54.3
メディカル	315	540	△225	△41.7	394	407	△13	△3.2
アパレル	1,185	363	822	226.7	△42	△113	71	-
ライフクリエイト	321	246	74	30.4	285	228	56	24.5
経常利益	3,419	1,838	1,581	86.0	2,424	1,366	1,058	77.5
親会社株主に帰属する中間純利益又は損失	2,640	△1,473	4,113	-	1,676	814	862	105.9

Ⅰ-7. 2027年３月期 第２四半期（中間期）決算 業績

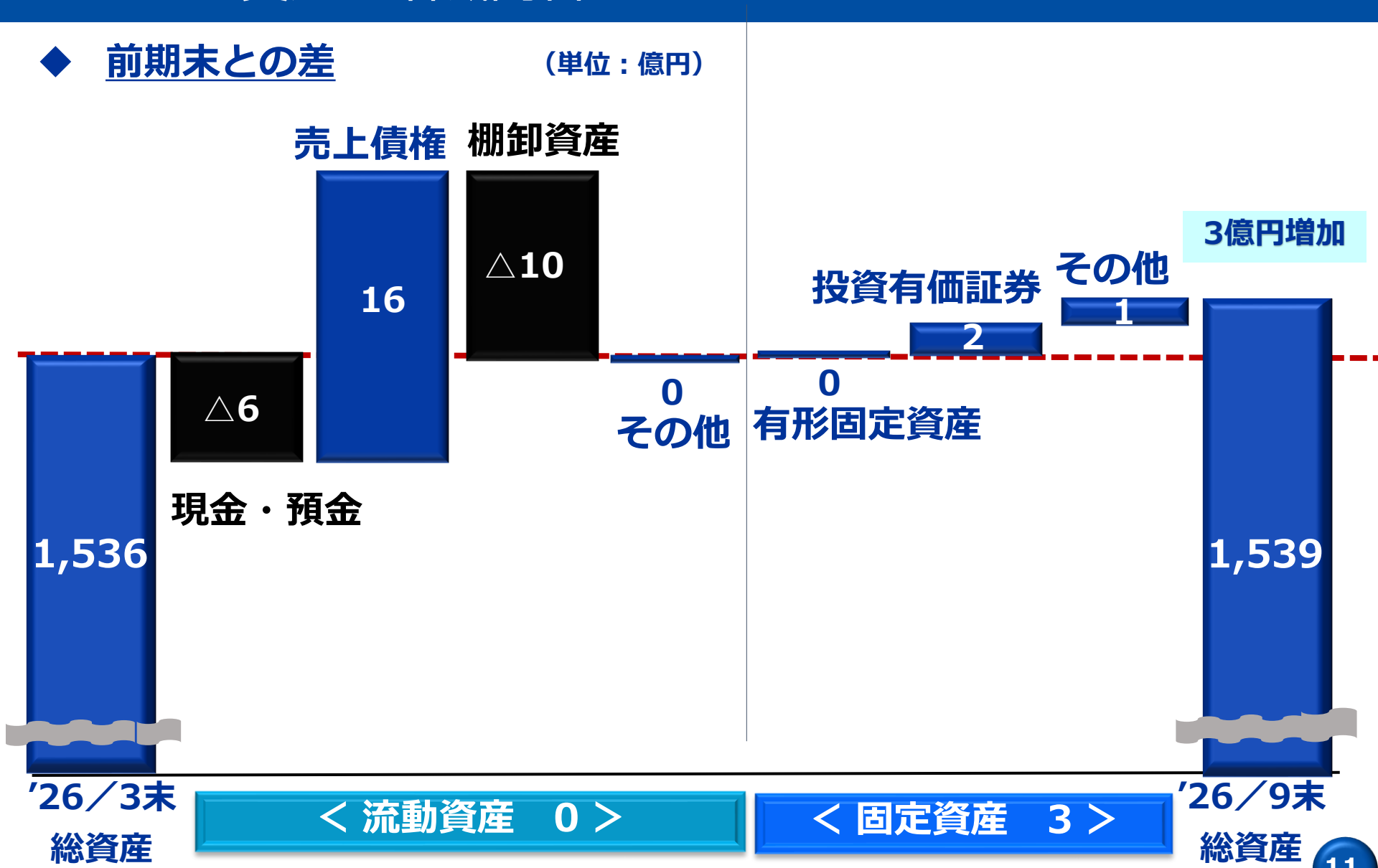
(単位：百万円)

	2027年3月期 第２四半期	2026年3月期	増減額
総資産	153,973	153,612	360
自己資本	109,769	111,756	△1,987
自己資本比率	71.3%	72.8%	△1.5%
有利子負債	15,426	15,727	△301
BPS 1株当たり純資産(円)	3,499.41	3,565.39	△65.98

Ⅰ-8.　資産の増減内容

◆ 前期末との差

（単位：億円）



Ⅰ-9. キャッシュフロー

キャッシュフロー

（単位：百万円）

	2027年3月期 9月末実績	2026年3月期 9月末実績	増減
営業活動	7,347	6,650	696
投資活動	△2,899	△7,997	5,098
FCF	4,448	△1,347	5,795
財務活動	△5,231	554	△5,785
現金及び現金同等物の期末残高	9,338	9,380	△41

■ 主な営業CF

税金等調整前中間純利益	5,772
減価償却費	3,734
棚卸資産の減少	1,315
売上債権及び契約資産の増加	△1,507
その他流動負債の減少	△845

■ 主な投資CF

固定資産の取得による支出	△2,904

■ 主な財務CF

短期借入金及びCPの増加	1,577
配当金の支払い	△6,737

Ⅰ-10. 設備投資と減価償却費

◆ 前年比：第２四半期（中間期）

（単位：百万円）

	設備投資				減価償却			
	2027年3月期		2026年3月期	対前期増減	2027年3月期		2026年3月期	対前期増減
	年間計画	２Ｑ累計	通期実績		当期計画	２Ｑ累計	通期実績	
機能ソリューション	3,600	2,492	5,866	△2,266	3,100	1,501	2,933	167
メディカル	800	206	2,492	△1,692	700	353	723	△23
アパレル	1,700	452	2,762	△1,062	1,600	723	1,479	121
ライフクリエイト	1,500	573	1,034	466	1,600	733	1,560	40
その他	400	89	372	28	600	422	607	△7
合計	8,000	3,813	12,527	△4,527	7,600	3,734	7,305	295

■当期の主要投資計画

エンジニアリングプラスチックス	増産対応及び新工場建設	1,900
プラスチックフィルム	製造装置増設及び設備更新	1,700
アパレル	事業構造改革及び海外生産設備増強	1,200



Ⅱ. 事業セグメント別の概況

Ⅱ-１．　2027年3月期第2四半期事業概況

◆ 機能ソリューション事業 1

事業の方向性

強化・拡大

■ プラスチック

市場環境変化に対応し、安定供給を果たすとともに、サーキュラーファクトリー（資源循環型工場）を中核に資源循環モデル確立を推進する

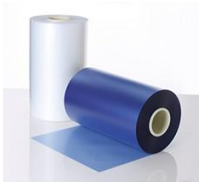
◆ 製品群	製品内容	概況
平板収縮	・PETとPSの積層構造ハイブリッドフィルムは、収縮特性に優れ、美麗性に特徴あり ・資源循環戦略による環境配慮型製品に注力	・飲料市場が厳しい中、原材料価格上昇に対応した価格改定の効果でカバー ・資源循環型フィルム「ジオプラスHCR」の採用が進展
ナイロン	・ガスバリア性や耐ピンホール（穴が開き難い）特性を保持	・資源循環による原価低減効果により受注が拡大 ・耐ピンホール性などを特徴とする差異化製品の採用が進む
工業用品	・半導体製造用、EV電池用等の工業材料や壁紙に使用	・半導体需要の拡大に伴い、製造工程に使用されるテープ用途が好調
ＯＰＰ	・防曇フィルムを中心に差異化を訴求	・業界全体の供給不安は一巡。機能性製品に特化し、好調を維持
グローバル	・米国、中国、ベトナムの3拠点にて平板収縮フィルムを生産・販売	・米国：ハイブリッドは堅調。次世代製品の販売を準備中 ・ベトナム：コスト競争力強化で、アセアン市場向けが堅調 ・中国：市況低迷に対して、製品値上げとコスト低減で対応



■シュリンク（平板収縮）



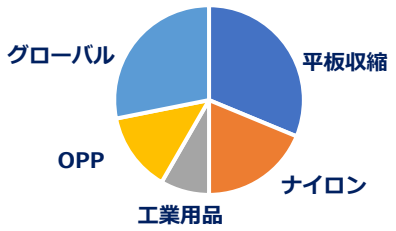
■ナイロン



■工業用品



■OPP



Ⅱ-２．　2027年3月期第2四半期事業概況

◆ 機能ソリューション事業　2

事業の方向性

強化・拡大

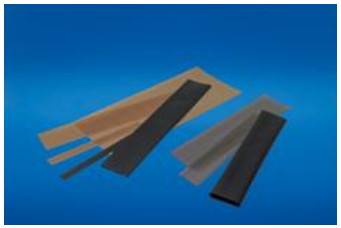
■ エンジニアリングプラスチックス

OA市場向け製品のシェア拡大を図るとともに半導体・医療・エネルギー分野など、非OA向けカテゴリーの強化に努め、事業成長を図る

◆ 製品群	製品内容	概況
ＯＡ向け機能商品	･定着ベルト/ロール用フッ素薄膜チューブ 中間転写ベルトは、グローバルトップシェア	・オフィス向け複合機、商業印刷機向けは堅調も、プリンター向けは需要減の影響を受ける
非ＯＡ向け	･産業分野の製造工程で使われる機能部品の製造・販売	・半導体向け製品は、市場における需要の高まりにより、好調に推移 ・医療向け製品は、カテーテル製造用チューブが堅調に推移



■シームレスベルト



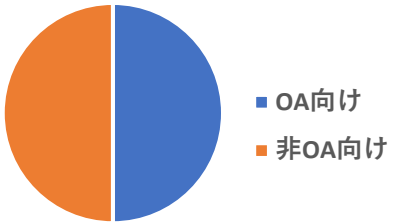
■フッ素薄肉チューブ



■半導体製造用
ﾌｨﾙﾀｰｻﾎﾟｰﾄ材



■フッ素樹脂ﾁｭｰﾌﾞ
(引裂き性付与)



Ⅱ-３．　2027年3月期第2四半期事業概況

◆ メディカル事業

事業の方向性
強化・拡大

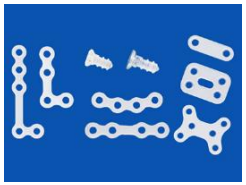
■ メディカル

自社開発製品の提供を通じて着実な売上拡大を図るとともに、グローバルに展開する医療機器企業への成長を目指す

◆ 製品群	製品内容	概況
組織補強材	・手術中における縫合部の補強や空気漏れ防止に適応 ・生体組織再生の足場材料として有効	・日本：競合参入影響に対し、付加価値訴求による対策を強化 ・中国：医療費適正化政策による病院での使用数量減影響を受け、厳しい状況が続く
骨接合材	・生体吸収性の骨接合材	・日本：形成外科を中心に需要は堅調に推移 ・中国：集中購買の対象品目への指定懸念から、買い控えの影響を受ける
人工皮膚	・コラーゲン使用の吸収性人工皮膚	・日本：熱傷領域を中心に使用拡大が進む ・中国：政策の影響を受けながらも、ほぼ前年並みに推移 ・米州・欧州：新規市場開拓を進める
癒着防止材	・凹凸形状を付与したフィルム状のゼラチンからなる吸収性癒着防止材　消化器外科中心に新規獲得進む	・重点施設での競合対策を強化し、シェア拡大を進める
仕入品	・美容・形成・創傷領域などの医療機器	・医療用レーザー：事業縮小に伴い、必要な顧客対応を進める



■組織補強材



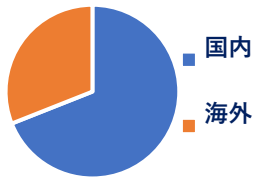
■骨接合材



■人工皮膚



■癒着防止材



Ⅱ-４．　2027年3月期第2四半期事業概況

◆ アパレル事業

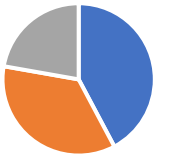
創益カテゴリーに集中特化し、収益性を最大化する持続的なビジネスモデルへ転換を図る

事業の方向性
構造改革

■ インナーウエア分野

- **ブランド・SKU削減、価格改定などの集中特化戦略を計画通り実行し、減販するも利益体質への転換が進む**
- **ECを中心に、DtoCルートへの販路シフトを推進**

・アセドロン：汗対策に特化した機能訴求が顧客ニーズを捉え、好調に推移
・KIREILABO・BODYWILD：価格改定や品番集約により苦戦する中、収益性は高まる







アセドロン

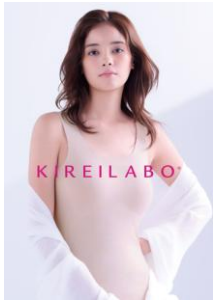
■ レッグウエア分野

- **ブランド集約、SKU削減による効率化の推進**
- **価格改定及び低収益カテゴリーからの戦略的撤退を進める**

・ストッキング：低採算PB撤退及び価格改定影響を受け数量減も収益性改善
・ソックス　　：生産基地適正化及び不採算カテゴリーからの撤退を進め、収益体質への転換を進める



SABRINA
レッグウエア



KIREILABO
インナーウェア



BODYWILD

Ⅱ-5.　2027年3月期第2四半期事業概況

◆ ライフクリエイト事業

不動産関連分野

投資効率を重視した物件別管理を強化し、低収益アセットの改善を進める

● SC事業の現況

・つかしん(兵庫県尼崎市）：リニューアル効果及び20周年イベントの強化などにより、来館者数が増加し堅調。



つかしん

● 不動産賃貸事業の現況

・売上、利益共に安定して推移

スポーツクラブ分野

スクール会員拡大、フィットネスの魅力度向上、学校・自治体からの受注拡大に取り組む

・既存店の価格改定とコストダウンの強化により収益性改善
・スクール事業は、店舗毎に対策を講じ会員数拡大
・フィットネス事業はターゲットに合った販促を強化
・学校、自治体などへ営業活動を強化し受注案件の拡大が進む



スクール事業

緑化分野

緑化需要の取り込みと、CO2固定化に積極的に取り組む

・首都圏では大型物件が順調も、地方は苦戦



都市緑化(御堂筋イチョウ並木)



Ⅲ. 2027年3月期連結業績見通し

Ⅲ-1. 2027年3月期連結業績予想

業績予想

※業績予想修正：無　　(単位：百万円)

項　目	2027年3月期		2026年3月期		対前年	
	業績予想	利益率	実績	利益率	増減	増減率
売上高	132,000		130,918		1,082	0.8%
営業利益	8,800	6.7%	4,882	3.7%	3,918	80.3%
経常利益	8,400	6.4%	4,920	3.8%	3,480	70.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,200	3.9%	509	0.4%	4,691	921.6%

Ⅲ-2. セグメント別業績予想

2027年3月期業績予想

※セグメント別見直し

（単位：百万円）

		前回予想	今回予想	増減
売上高	機能ソリューション	49,300	51,300	2,000
	メディカル	14,400	13,400	△ 1,000
	アパレル	56,600	55,600	△ 1,000
	ライフクリエイト	13,000	13,000	0
	消去	△ 1,300	△ 1,300	0
	連結合計	132,000	132,000	0
営業利益	機能ソリューション	8,300	8,900	600
	メディカル	1,800	1,000	△ 800
	アパレル	1,300	1,500	200
	ライフクリエイト	1,300	1,300	0
	消去	△ 3,900	△ 3,900	0
	連結合計	8,800	8,800	0

Ⅲ-3.セグメント別業績予想の変更（営業利益）

機能ソリューション・アパレルの上振れとメディカルの回復遅れを反映

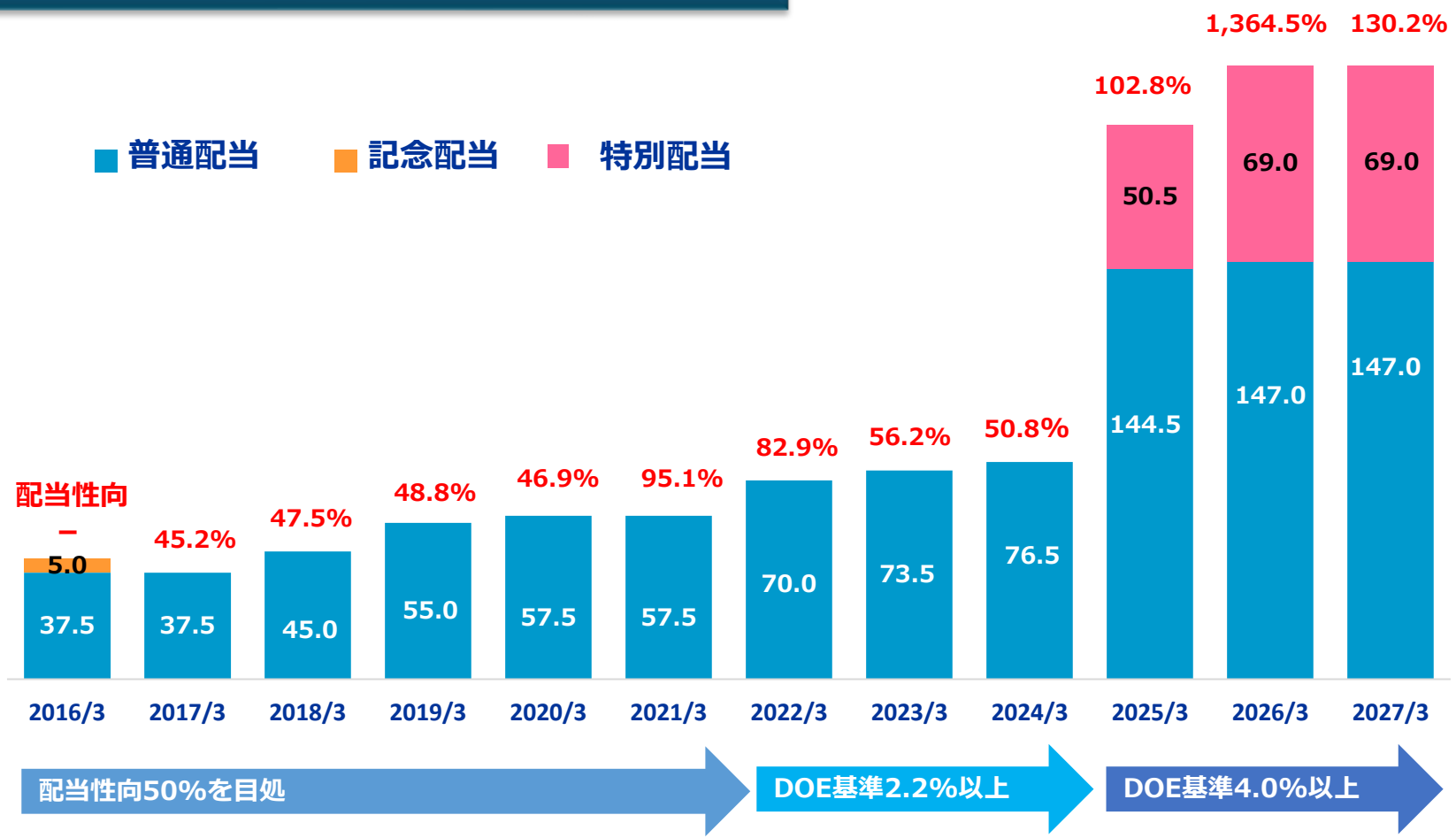
通期営業利益の変更		事業の状況と取り組み
機能ソリューション事業	＋6億円　83→89億円	**価格・原料コスト差を主因に利益が上振れ** 価格転嫁・原料価格の時間差が寄与、海外回復・コスト削減も下支え フィルターサポート材・フッ素配管・半導体製造用テープ基材フィルムが堅調 供給体制整備・生産性向上・製造ロス削減を推進
メディカル事業	△8億円　18→10億円	**中国の下期回復前提を見直し、利益予想を引き下げ** 政策影響で組織補強材の使用量が減少、流通在庫調整・発注抑制が継続 国内新商品（仕入品）の薬事承認遅れ 中国以外の海外市場での拡販、国内営業体制の強化
アパレル事業	＋2億円　13→15億円	**構造改革が着実に進展し、収益性が改善** ブランド集約・価格改定、低収益カテゴリーの見直しにより収益性が改善 生産・物流拠点集約や間接部門合理化による効率化も進展 重点ブランドへの資源集中と在庫適正化を推進

Ⅲ-4. 株主還元

１株配当金と配当性向の推移

（単位：円）

予想

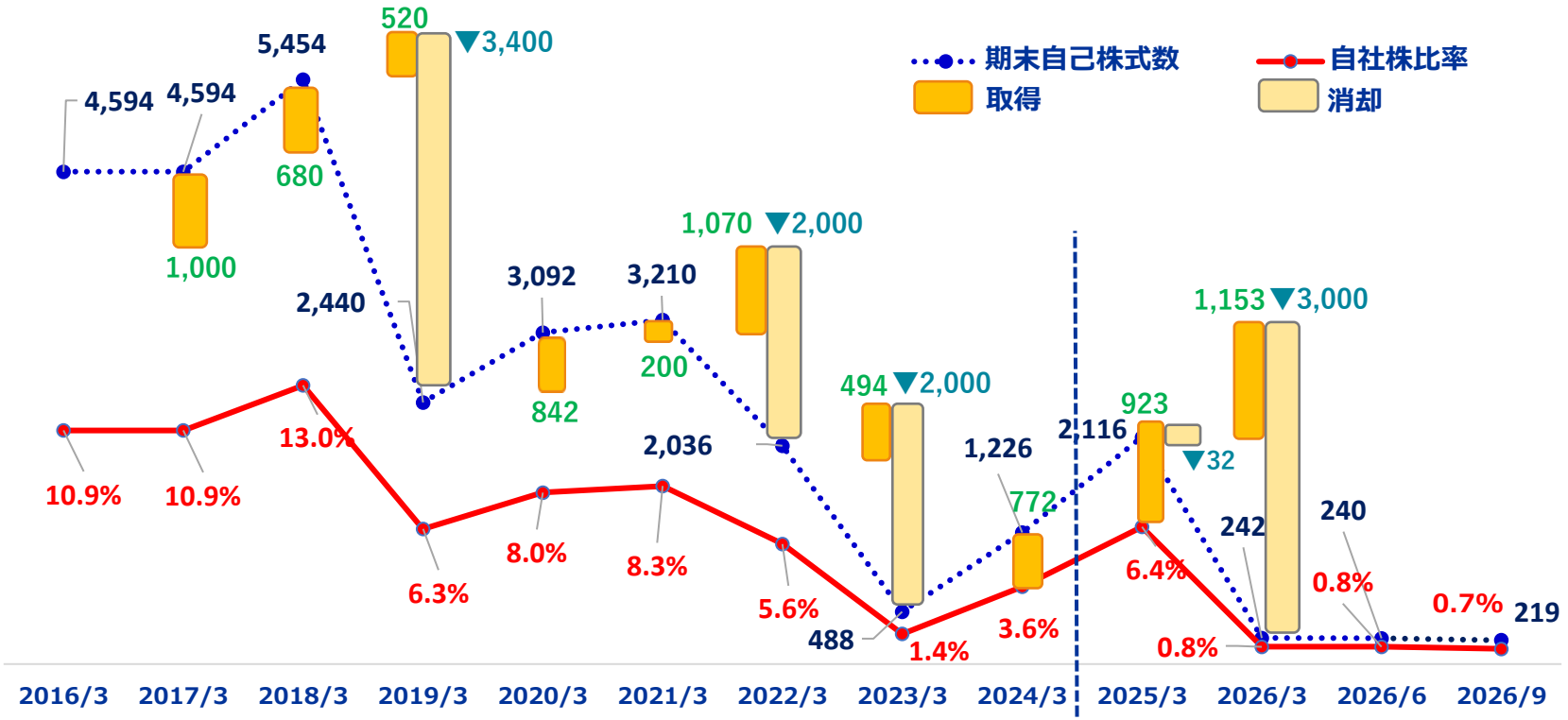


※ 2025年4月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を実施　過年度分も当該株式分割後ベースで記載

Ⅲ-5. 株主還元

自社株の状況

（単位：千株）



※ 2025年4月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を実施　過年度分も当該株式分割後ベースで記載

Ⅲ-6. 適時開示（11/5）

自己株式取得に係る事項の決定

1．自己株式の取得を行う理由
当社は、株主の皆さまに対する安定的・継続的な利益還元および企業価値の持続的向上のため、2025年５月14日に株主還元方針を変更
このたびの自己株式取得の決議は、この株主還元方針に基づく

2．取得の内容
（１）取得する株式の種類　当社普通株式
（２）取得する株式の総数　100万株（上限）
（発行済株式総数に対する割合 3.17%）
（３）株式の取得価額の総額　4,000百万円（上限）
（４）取得期間　2026年11月６日から2027年３月24日まで

（参考）2026年９月30日時点の自己株式の保有状況
発行式株式総数（自己株式を除く）31,368,015株
自己株式数　219,017株

本資料のうち、業績見通し等に記載されている内容は、現在入手可能な情報による判断に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策を保証するものではありません。